

この一年を振り返ってそして次の一年にむけて

社会福祉法人草の実会 理事長 手塚玄

まず胆振東部地震、今年が一番大きな出来事だった。草の実関係の被害はほとんど無かったがいつどこで何が起ころかわからない、ということを実感させられた。平岸の里がグループホーム利用者の一時的避難場所になった。幸いその日の夕方には電気が回復しいつもの生活に戻ることができた。多くの反省点、教訓を得た。法人として災害時の対策はほとんど立てていなかった。利用者・職員の安否確認のマニュアルもなく食料・備品の備蓄もしていなかった。でも何とかあった。職員は自主的にどんどん出勤して(当然、出勤できなかった事情の職員もいるが)、早い段階で利用者の安否確認ができた。グループホーム利用者への食事は滞りなく提供できた。運が良かった。冬だったら、日中だったら、停電が長期になったら、・・・きっとお手上げだっただろう。でも、そんな時でも草の実会の職員は最善を尽くしてくれるだろう。今回出勤してくれた職員の顔を思い浮かべるとそう思う。だれにも、動揺や困惑の表情はなかった。“備えあれば憂いなし”なのだがその“備え”を活用するのは人。マニュアルや強力な采配が無くともこれだけやれたのだからこの先、何が起きても頼りになる職員達だ。だからなおさら災害対策検討会議でまとめている方策を、可能な限り速やかに整備し、いざというときに備えようと思う。

そして2018年の1月、優生保護法のもと強制的に不妊手術を受けた女性が国家賠償を求め訴訟を起こした。衆議院で全会一致で成立した優生保護法、手術数を競った自治体、謝罪をしない政府、この件に関わった関係機関、関係者を考えるとやまゆり園事件よりおぞましいと言える。札幌でも提訴した方がいる。DPIが主催した集会に参加した。多くの方の人権が踏みにじられた。これからも見守っていく。

そして、やまゆり園事件について。この2年草の実会の会報で毎回取り上げてきた。この事件に関するいろいろな立場の人の感想を載せた。それらをもとにこの事件についての議論が起こればと思ったが、そう簡単ではなかった。この事件を語ることは容易ではない。一般的には“殺人は許されない、殺されていい命とそうでない命があるわけではない”というしごく当たり前のことが通用しない事件だった。しかも犯人に共感する意見が多くあった。私たちににとっては思ってもいなかった事件だが世間的にはそうではないのかも知れない。凶悪な犯罪は数え切れないほど起こっている。金品のための計画的な殺人も数多い。

大企業の計画的な不正もきりが無い。官公庁の障がい者雇用の水増しもそのいい例だ。この国にはすでに人間性が無くなっているのだろうか。“福祉”に生きる私たちの感覚が世間とずれているのかも知れない。でもだからと言って私たちの感性を変えることはできない。

この事件は私たちのいる福祉の世界が生み出した事件、私たちが生み出した事件である。他のなにもの責任でもない。福祉がこの事の責任をとらない限り、またいつか差別され、虐待を受け、殺される障がい者が生まれる。「私はそんなことはしない」「うちの法人ではそんなことを起こさない」と決意するのは当たり前で、自分以外、自分の施設以外でもこんな事を二度と起こさせないためどうすべきか考えていく。

7月に発行された創出版の「開けられたパンドラの箱」を読んだ。私はいいい本だと思う。植松聖の主張だけでなく、当事者や家族、そして専門家の意見もしっかり載せている。非難は当たらない。ぜひ読んでほしい。

11月10日、DPI主催の障害者基本法改正に向けたフォーラムに参加した。各政党の国会議員、福祉団体のアピールがあった。その中で、北海道重症心身障害児(者)を守る会の会長太田由美子さんの言葉がしみた。

「ひとりでは生きていけない幸せ」と
言い変えたら「人にたすけてもらって生きる幸せ」

“人に支えてもらって生きる幸せ(支えてくれる人のいない不幸)” いろんなふうに表示することができる。つきるところ、これこそが人間ということではないのだろうか。どんな人にもこの幸せを感じてもらわねば、と思う。どんな人もみな対等ということの根っこではないだろうか。やまゆり園事件を乗り越える為にも、このことは大事なことのよう感じる。

そして最後に、2018年に「SDGs (エス・ディー・ジーズ、持続可能な開発目標)」を知った。2015年に国連で採択された、この先の地球の社会・経済・環境等についての変革目標。貧困をなくす、飢餓をゼロに、健康と福祉、教育、ジェンダー平等、クリーンエネルギー、不平等の解消、気候変動対策、平和と正義など地球が抱える17の課題とその実現のための179の個別目標。2030年達成を目指している。今まで全く気がつかずにいた。国連で決議された事なので政府を始め、自治体、各種団体、企業が取り組みを始めている。SDGsの根幹には「誰も取り残さない」「一番必要なことから始める」という理念がある。私たちのやっている福祉の事業についてもこのSDGsに即して考えていく必要があるように思う。